お母さん達

新美南吉

青空文庫

目次

バスを待つうしろ姿 3
紙の上に鉛筆の線 13
後悔を同封します 22
坂の下の焼肉の店 33
都電からいつも見ていた 41
もう痛くない彼女 50
いまはそれどころではない 72
孤独をさらに深める 91
あとがき 105

お母さんになつた小鳥が木の上の巣の中で卵をあたためてをりました。するとまた今日も牝牛がその下へやつて來ました。

「小鳥さん、今日は。」と牝牛がいひました。

「まだ卵は孵りませんか。」

「まだ孵りません。」と小鳥は答へていひました。

「あなたの赤ちやんはまだですか。」

「だん〳〵お腹の中で大きくなつてまゐります。もう十日もしたら生れませう。」と牝牛はいひました。

それから小鳥と牝牛はいつものやうにまだ生れてゐない自分たちの赤ん坊のことで、自慢をしあひました。

「牝牛さん、聞いて下さい。私の可愛い坊や達はね。きつと美しい瑠璃色をしてゐて、薔薇の花みたいによい匂がしますよ。そして鈴をふるやうなよい聲でちる〳〵と歌ひますよ。」

「私の坊やはね、蹄が二つに割れてゐて、毛色はぶちで尻つぽもちやんとついてゐて、私を呼ぶときは、もう〳〵つて可愛い聲で呼びますよ。」

「あら可笑しい。」と小鳥は笑ひをおさへていひました。

「もう〳〵が可愛い聲ですつて。それに尻つぽなんか餘計なものよ。」

「何を仰有るのですか。」と牝牛も負けずにいひました。

「尻つぽが餘計なものなら、嘴なんかも餘計なものよ。」

こんな風に話をしてゐたら、お終には喧嘩になつてしまひませう。ところが喧嘩にならない前に、一匹の蛙が水の中からぴよんと跳び出して來ました。

「何をそんなに一生けんめいに話していらつしやるのですか。」と緑色の蛙は聞きました。そして、牝牛と小鳥からそのわけを聞くと、蛙は眼をまんまるくして、

「それは大變よ。」といひました。何が大變なのか牝牛と小鳥が心配さうにきくと、蛙はいひました。

「あなた方は赤ちやんがもうぢき生れるといふのに、子守歌を習ひもしないで、そんな暢氣なことを言つていらつしやる。」

牝牛と小鳥は、どうしてこんなにうつかりしてゐたのでせう。早速子守歌を習はなければなりません。ところで誰に習つたものでせう。

「ぢやあ、私が教へてあげます。」と蛙がいひました。牝牛と小鳥は大變喜んで、蛙に子守歌を教へて貰ひました。

けれども、こんなにむづかしい子守歌はありません。とてもむづかしくて牝牛と小鳥はちつとも覺えられませんでした。それはかういふ子守歌でした。

げつ　げつ　げつ
げろ　げろ　げつ
ぎやろ　ぎやろ
げろ　げろ

ぎやろ　げろ　げつ

牝牛と小鳥は、一生けんめいに習ひましたが、それでも覺えられないのでお終にはいやになつてしまひました。けれど蛙が、「子守歌を知らないでどうして赤ん坊が育てられませう。」といひますので、また元氣を出して、「げつ　げつ　げつ」と習ふのでした。そしてそれは夕方、風が涼しくなる頃までつづきました。

青空文庫情報

底本：「校定　新美南吉全集第三巻」大日本図書
1980（昭和55）年7月31日初版第1刷発行
1992（平成4）年2月25日第4刷発行
初出：「幼稚園と家庭　毎日のお話」育英書院
1936（昭和11）年11月15日
※「可愛《かは》いい」と「可愛《かあい》い」の混在は底本の通りです。
入力：Juki
校正：富田倫生
2012年5月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さん達

新美南吉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/